

## 企画展「竜門社創立 140 年 青淵<sup>せいえん</sup>先生と初期竜門社の人びと — 渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち」開催のご案内

本年は公益財団法人渋沢栄一記念財団の前身、「竜門社」が明治 19 年（1886）に創立されてから 140 年の節目です。竜門社の起源は、東京深川にあった渋沢邸の書生たちが勉学に励み、演説・討論をした勉強会です。組織名は青淵先生（渋沢栄一）の従兄で学問の師でもある尾高惇忠が、渋沢邸の書生名簿を「竜門名簿」と名付けたことに由来します。

討論会や雑誌『竜門雑誌』の発行など精力的な活動を続けながら勉学に励んだ書生たちはやがて社会で活躍するようになり、竜門社も書生ばかりでなく青淵先生の思想や人柄を慕い、多くを学ぼうとするさまざまな人々の組織へ発展しました。そして明治末には同人組織を脱し、青淵先生の掲げた「道徳経済合一説」を広め、実践するための団体へとなるため組織を改めました。大正 13 年（1924）には財団法人となり、改称などを経て現在に至ります。

これまで、渋沢史料館では創立 100 年であった昭和 61 年（1986）10 月には特別展「竜門社一〇〇年のあゆみ 激動する社会の中で」を、創立 120 年であった平成 18 年（2006）11 月には企画展「青淵先生、想い続けて 120 年 — 竜門社の歩み —」を開催し、当財団の歩みを振り返ってきました。140 年の節目にあたっては、創立の中心であった渋沢家の書生出身の社員たちに注目した本展示、「青淵先生と初期竜門社の人びと — 渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち」を開催いたします。

本展示では、竜門社が同人組織だった時代を「初期竜門社」と位置付け、その中心だった渋沢家の書生出身の社員たちに注目します。当時の写真から彼らの姿を、『竜門雑誌』からは活動の様子を、そして社員名簿の調査成果からは書生たちがどのように成長したのかをご紹介します。

### 展示概要

展示名	竜門社創立 140 年 青淵先生と初期竜門社の人びと — 渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち		
主催	公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館		
会期	令和 8 年（2026）4 月 1 日（水）～7 月 26 日（日）		
開館時間	10 時～17 時（最終入館 16 時 30 分）		
休館日	月曜日、祝日の翌平日（月曜日が祝日の場合は開館）		
会場	渋沢史料館 企画展示室 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-16-1（飛鳥山公園内）		
入館料	一般 500 円、小中高生 100 円		
アクセス	JR 京浜東北線	王子駅南口下車	徒歩 5 分
	東京メトロ南北線	西ヶ原駅下車	徒歩 7 分
	都電荒川線	飛鳥山停留場下車	徒歩 4 分
	都バス	飛鳥山停留所下車	徒歩 5 分
	北区コミュニティバス	飛鳥山公園停留所	徒歩 3 分

## 展示構成

- 第1章 竜門社の歩み（年表）
- 第2章 初期竜門社の人びと
- 第3章 書生出身社員たちの成長

## 主な展示資料

### <原資料>

- ・ 竜門社第2回春季総集会 渋沢栄一演説原稿 明治22年（1889）
- ・ 初期の竜門社旗（複製） 昭和61年（1986）製作
- ・ 『竜門雑誌』（旧4号） 明治20年（1887）5月
- ・ 「竜門社社則」（『竜門雑誌』250号所収） 明治42年（1909）3月

### <パネル展示>

- ・ 竜門社第7回秋季総集会集合写真（東京銀行集会所） 明治24年10月25日
- ・ 初期の竜門社旗を持つ尾高豊作（写真） 昭和13年（1938）頃
- ・ 写真でたどる、書生出身社員たちの成長
- ・ 大川平三郎、尾高次郎、八十島親徳、石井健吾（書生出身社員紹介）
- ・ 社員名簿でたどる、書生出身社員たち

## お問い合わせ

展示担当：清水裕介（渋沢史料館 学芸員）  
広報担当：加藤靖裕（渋沢栄一記念財団 総務）  
E-mail：[kikaku2026@shibusawa.or.jp](mailto:kikaku2026@shibusawa.or.jp)  
TEL：03-3910-0005

企画展「竜門社創立 140 年 青淵先生と初期竜門社の人びとー渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち」の広報用画像を提供いたします（無料）

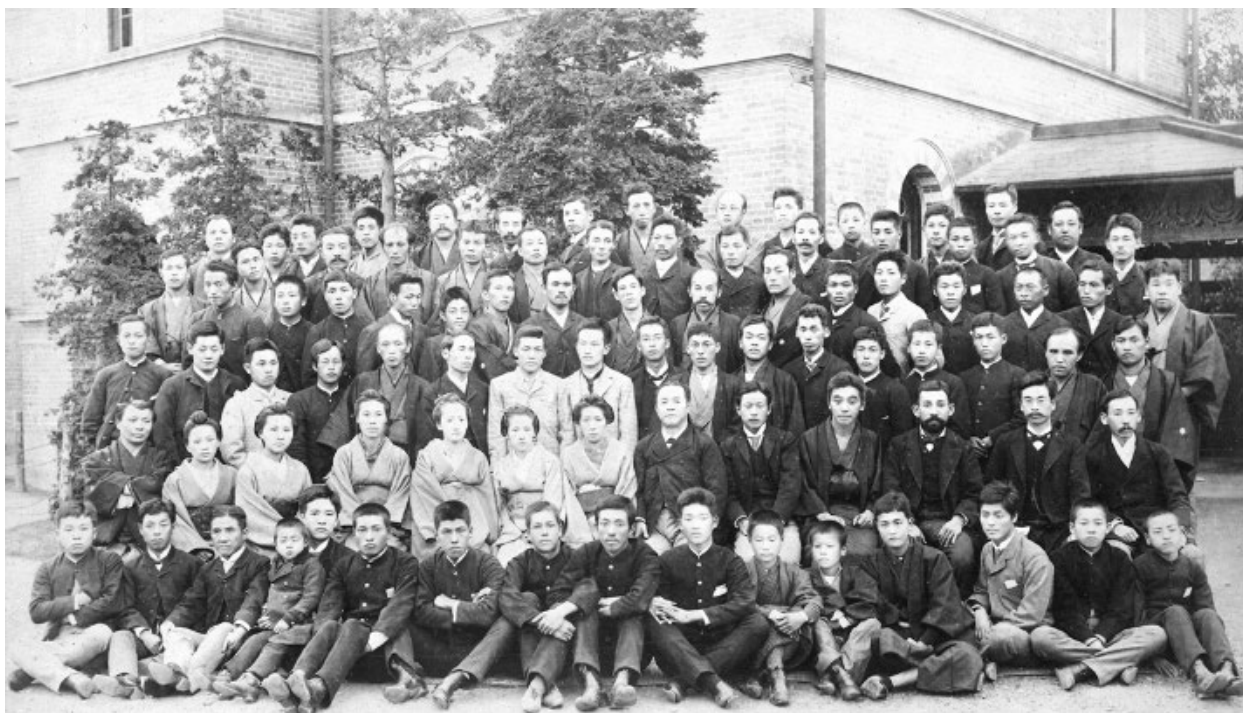
企画展広報用として、資料の画像（計 3 点）を用意しております。

ぜひ、本企画展をご紹介くださいますようお願い申し上げます。

ご紹介いただける場合は、別紙「企画展広報用画像 掲載申請書」にご記入の上、メールに添付してお申し込みください。ご希望の画像（JPEG）をメールでお送りします。

① 竜門社第 7 回秋季総集會集合写真

明治 24 年 10 月 25 日撮影／渋沢史料館所蔵



東京銀行集会所で行われた第 7 回総集會の際に撮影された写真。青淵先生（渋沢栄一）を中心に、竜門社員、家族・親類、来賓など 90 名が写る。初期竜門社の中心だった渋沢邸の書生や書生出身者としては桃井健吾（のち第一銀行頭取）、八十島親徳（のち渋沢栄一秘書役）、尾高次郎（渋沢栄一甥、のち武州銀行頭取）の姿が見える。展示室では拡大印刷して展示し、これまでに判明した約 80 名の氏名などを紹介。

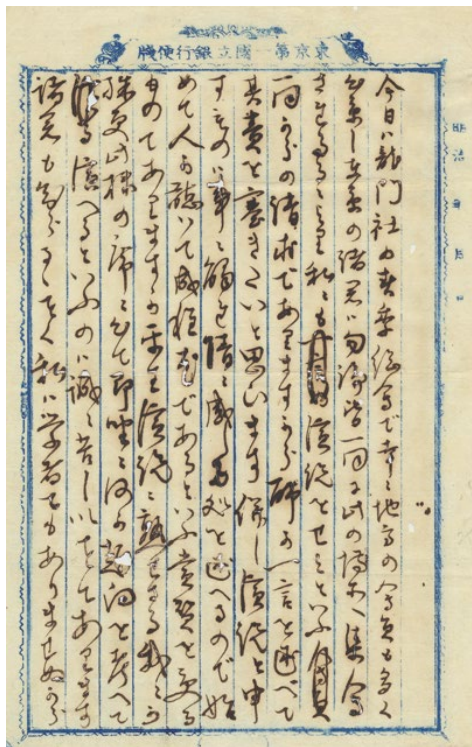
## ② 初期の竜門社旗を持つ尾高豊作 昭和 13 年頃／渋沢史料館所蔵



尾高豊作は初期竜門社の中心的人物・尾高次郎（渋沢栄一・甥）の長男。豊作が持つ初期の竜門社旗は次郎の筆による。写真は父が揮毫した社旗が見つかったこと、父から聞いた竜門社と旗に関する逸話について豊作が記した『『竜門』回顧－社旗の由来をたづねて』を所収した機関誌『竜門雑誌』に掲載されたもの。

この写真は旗の大きさが等倍（およそ縦 152 cm・横 91 cm）となるように印刷し、企画展示室入口に展示している。

## ③ 竜門社第 2 回春季総集会 渋沢栄一演説原稿 明治 22 年（4 月頃）／渋沢史料館所蔵



明治 22 年 4 月 7 日に青淵先生（渋沢栄一）の飛鳥山別邸で行われた竜門社の第 2 回総集会での演説原稿。総集会は前年 4 月に「竜門社規則」の改正で春・秋の年 2 回行くと定められたもので、全国から社員が集まる機会となっていた。

青淵先生による竜門社総集会における演説はこの時が最初で、題目は「商人の本務を示す」です。青淵先生は、自身は学者ではないからこれまでの経験から話をすると、実業界に入った頃について振り返っている。原稿は、官途を望み、政治・文学・法律を学ぶ学生が多い一方、「商工業・理化学の学科」は不人気であった明治初期を回顧する部分までが残り、続きは残存が確認できていない。

## 企画展広報用画像 掲載申請書

送付先

渋沢史料館 企画展担当 行

E-mail: [kikaku2026@shibusawa.or.jp](mailto:kikaku2026@shibusawa.or.jp)

企画展「竜門社創立 140 年 青淵先生と初期竜門社の人びと」に関する記事作成のため、以下の資料画像を使用します。使用にあたり、「ご使用に際しての注意とお願い」を遵守します。

■申請者情報・申請目的

申込日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

貴社名

部署名

ご担当者名

TEL.

E-mail

媒体名

発行社名  
(貴社名と異なる場合)

コーナー名

発行・放送予定日

発行部数

定価

■ご使用希望画像 ご希望の番号に○をつけてください。

- ① 竜門社第 7 回秋季総集会集合写真 明治 24 年 10 月 25 日
- ② 初期の竜門社旗を持つ尾高豊作 昭和 13 年頃
- ③ 竜門社第 2 回春季総集会 渋沢栄一演説原稿 明治 22 年

■ご使用に際しての注意とお願い

- ・画像のご使用は、本企画展をご紹介くださる場合にのみ許可いたします。
- ・ご利用は 1 申請につき 1 回限りとし、ご利用後は必ず破棄してください。
- ・資料名及び渋沢史料館所蔵であることを明記してください。
- ・画像はトリミングせず、全図でご使用ください。
- ・画像に文字などを重ねないようにご使用ください。
- ・基本情報確認のため、入稿前に校正原稿を企画展担当までお送りください。
- ・掲載、放送後に掲載紙（誌）、番組 DVD 等を 1 部ご寄贈ください。  
WEB サイトでご利用の場合は、掲載後に該当記事を印刷したものをご寄贈ください。
- ・ご申請後に内容が変更になる場合は、必ず事前にご連絡ください。